

城のある都市復活

# 福岡城だより

2013.夏  
SUMMER  
No. 38



コイサギ



アオサギ



カワセミ



カワセミ

福岡城彩発見フォトコンテスト審査員特別賞 後藤恒二様「舞鶴城堀の鳥たち」

## 黒田官兵衛と太宰府

太宰府天満宮 宮司 西高辻 信良



明年、平成二十六年のNHK大河ドラマが「軍師官兵衛」に決定いたしましたこと、御同慶の至ります。

さて、黒田家と太宰

府天満宮は、歴代藩主の天神信仰をもって深い絆に結ばれていました。黒田家の江戸屋敷には、銅製の雛形の太宰府天満宮（現存）があって、藩主は江戸参勤の折は、この宮に拝礼していたのです。

黒田官兵衛（如水）と長政親子のように、性格や才能が異なっているのも珍しいと思います。関ヶ原の合戦の時、父如水は天下を取るという野望のもと、俄仕立ての軍勢を編成し、九州で兵を挙げました。一方、息子の長政は、徳川方にあって大名の地位を獲得すべく東奔西走しました。如水は、「この戦は長期戦」とよみましたが、皮肉なことに、息子長政の機敏な働きで、わずか半日で家康の勝利を決したのでした。合戦の後、長政は筑前五十二万石を与えられます。ここに至って長政の計画は成功したといえますが、天下取りを目指した父如水の思惑は、息子の活躍で水の泡に帰したのです。

豊前中津十二万石から筑前博多へ転封を命じられた時、如水の気は重くなっていました。その時、公卿の近衛信尹から筑前への栄転の祝い状が届きました。「筑前国は宰府に菅聖廟があり、その領国に住いるあなたは幸せ者ですよ」という文面がありました。そこで、福岡城築造中は、天満宮楼門横に草庵と井戸を作り、連歌と茶を楽しんでいたと記されています。



# シリーズ 黒田筑前藩(福岡藩)の誇れる実績

## 第1回 豊臣秀吉の九州平定戦 軍監黒田官兵衛の活躍!!

黒田家の福岡県との拘わり合いは「黒田如水・長政父子の筑前国入国は、関が原合戦の大功により…」と思われがちです。

しかし、それ以前に「天下統一を目指す豊臣秀吉軍団の中で、一番先に九州豊前国・筑前国(いずれも福岡県)の地に足を踏み入れ、活躍したのは黒田官兵衛だった!!」のです。

豊臣秀吉の中国・四国平定戦は、軍監黒田官兵衛の活躍で連戦連勝。続いて九州平定戦に。

その前哨戦として、天正14年(1586)7月黒田軍4千は京を進発、9月に長門赤間関に至り、毛利輝元に九州への出陣を督促する。

10月3日後続の毛利軍と共に海を渡り、翌日小倉城を落とし、豊前松山城(荻田町)と馬ヶ岳城(行橋市・京都郡みやこ町)を攻略。

11月7日には豊前宇留津城(築上町)を囲み、官兵衛は包囲勢の士気を高めるため黒田軍を真っ先に突進させて指物を城内に投げ込ませ、母里太兵衛が一番乗りを果たす。

城は僅か一日で落城した。これにより近隣の諸豪族も完全に帰服し、黒田軍団の総員はさらに膨れ上がった。

11月15日、障子ヶ岳城(みやこ町)を攻略、翌日より高橋元種

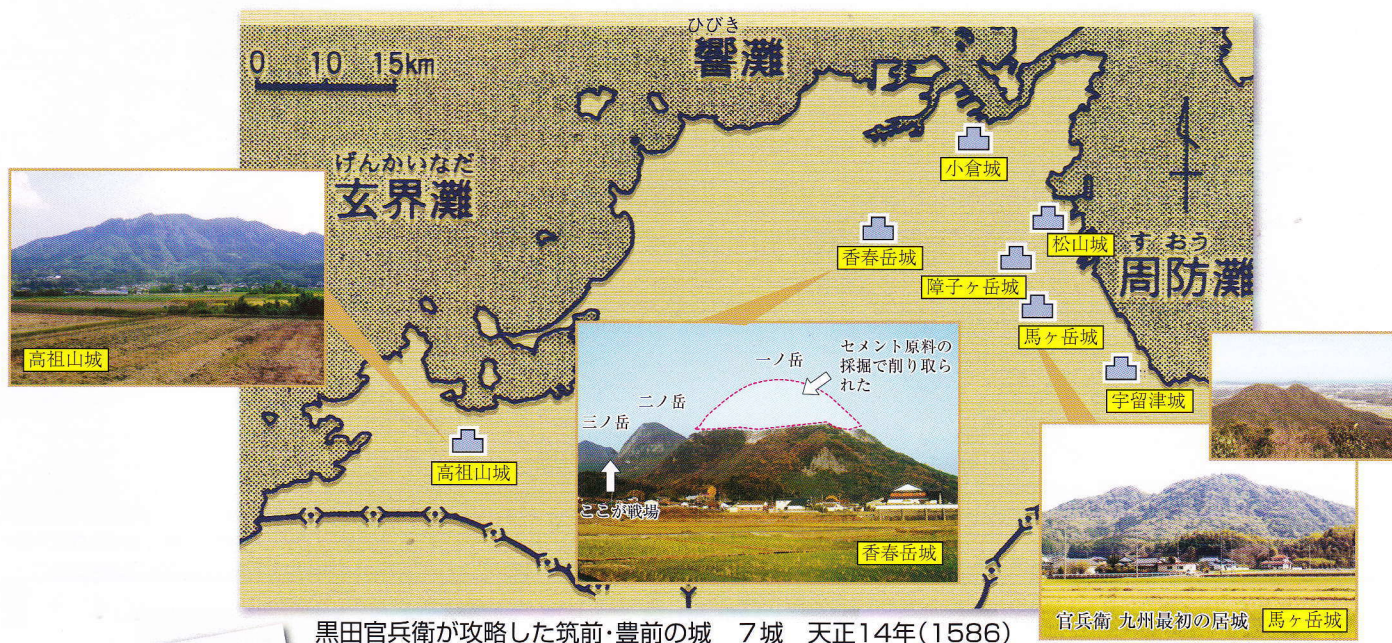
(秋月種実の次男)が防備を固め、全員集結して籠城している香春岳城(香春町)を囲んだ。11月20日最初の総攻撃を開始。黒田・吉川・小早川軍は、守備兵を追撃し、二ノ岳と三ノ岳の吹きさらしの鞍部に、官兵衛が発案した「人枿(ひとまたす)」という長方形の土塁の砦(前進基地)を構築し、厳寒の戦線を有利に展開。12月11日最後の総攻撃を敢行。守備兵を追い詰め、元種もついに降伏した。

続いて12月中旬、黒田・毛利軍は筑前に入り、早くから秀吉方だった立花宗茂と合流し、長垂山を越え西に進み、原田信種の高祖山城(糸島市)を囲み、大手に攻め入ろうとした。このとき官兵衛の臣久野四兵衛が月毛の馬に跨がり大手門まで一番駆をした。

後に原田降伏を喜んだ秀吉は12月20日の書状で、久野四兵衛に一番乗りの朱印を与えている。

この後、黒田官兵衛と久野四兵衛は、焼け野が原となり荒廃した博多の町を整備し、戦火を逃れて離散していた博多商人・町民を呼び戻し、秀吉の命による博多再興に取りかかる。

同時に、天正15年(1587)九州平定本戦をひかえ、秀吉が着座する馬ヶ岳城の大改築工事にとりかかる。このように黒田官兵衛は、天下統一を目指す豊臣秀吉を支え続けた。



黒田官兵衛が攻略した筑前・豊前の城 7城 天正14年(1586)

タブレットで知ろう。  
福岡城!

福岡市が作成した「鴻臚館・福岡城バーチャル時空散歩」と題したタブレットを手にして、ボランティアガイドによる福岡城・鴻臚館の解説と散策をします。

江戸時代の福岡城内を映像にて再現。聳え立つ天守閣。天守台に登ると、当時の福岡市内が一望に…。

鴻臚館跡では、かつての姿が再現できます。

ぜひ、一度福岡城内に足を運んで見られませんか。

タブレットの貸し出しについては、「福岡城むかし探訪館」

092(732)4801  
にお尋ね下さい。





# 黒田藩祖官兵衛から学ぶ

シリーズ

## 第二回 「黒田家の遺産」

福岡市博物館顧問

田坂 大藏

「軍師官兵衛」の大テーマのもと、官兵衛像を理解するために様々な角度から検討が加えられるのですが、私に与えられたテーマは「黒田家の遺産」であります。したがって、これは決して官兵衛の事績・人となりに限ったことではなく、黒田家の活動の中から現代の福岡につながる事柄を考えることだと理解し、特徴的なことをいくつか考えてみることにします。

一般的に遺産と云えば有形と無形に区別できるかと思えます。無形の遺産として取り上げたいのは文化面です。とりわけ学術文化面での学校教育・子弟教育を挙げてみましょう。それは江戸時代中ごろ（天明四年・一七八四）に設置された藩校のことであります。藩士の子弟のためとは言いますが、儒教を中心とした東学問所「修猷館」と陽明学の西学問所「甘棠館」の二校が用意され、前者は上級家臣向けで館長は具原益軒につながる竹田氏が、後者は中級家臣以下向けで館長には亀井南冥が起用されています。幕府の正統な学問系統は儒教であるため、異なる方向をも志向した藩の意図がどこにあったかは判然とはしませんが、学問を幅広く教授させようとした姿勢は評価する必要があります。明治時代になって、黒田家が東京に移住し、藩校が廃止され、世情が騒がしくなり、士族の反乱になったと

き、黒田家は国許福岡の旧士族の動静を非常に憂慮し、原因は学問が廃れていることであるとして、中学修猷館の建設運動に邁進することになります。後に県立学校への資金援助が不要になってからは、子弟教育のために私的な奨学金制度を開設することとし、母体である「黒田奨学会」を設立しました。給付金返済不要のこの奨学金制度は、将来の人材育成のため今日も続けられています。

一方有形のものとしてはまずは「福岡城と城下町の築造」が挙げられましょう。このテーマについては、別の時間が用意されていますので、ここでは、官兵衛と息子長政の時代に都市福岡の原型が造られ、更に「福岡」の地名が創設されたことを指摘しておきます。

いまひとつは「黒田家什宝」の保存管理の権限が福岡市に譲られたことであります。明治時代に黒田家は什宝と共に東京へ移住します。東京大空襲で焼失を免れた什宝は、土蔵一棟分だけでしたが、十四代当主長禮氏は、「黒田家什宝は、美術作品といえども、地元福岡との関係で意味のある歴史資料である」との持論から、地元福岡に全什宝を移し、管理・公開を行う事を快諾されました。黒田家什宝は、福岡市の美術館と博物館とで保存され、適宜公開されて、江戸時代の福岡地方の文化を、現代に伝えているのです。

## 会員からのよもやま話

福岡城のユニークな櫓

荻野忠行氏の研究から：祈念櫓とは

川本 一守

祈念櫓は福岡城築城のとき、地鎮祭を真言宗法印尊秀に修せしめたことによる。尊秀は文司城主奴留油主水正の子。文禄年間（一五七三～一五九五）中津に住し、長政に随っていた。福岡城は鬼門に当たる場所に祈念櫓を建て、臨済宗の寺として厄除けにした。

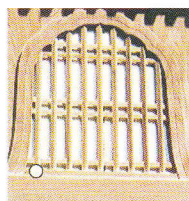
尊秀は儒学に秀れて、二代藩主忠之の幼年時代の師であった。寛永二年八月二十四日寂。忠之は、栗山大膳事件の恩義に報い、また尊秀のために真言宗東長寺の再建を果たし、自らの菩提寺とした。息の島（博多区行ノ町）にあった東長寺は、島津の兵火（一五八六）でわずかな寺宝と共に糸島郡に避難していた。

尊秀を甚く尊敬していた忠之は、それを探し出して御供所町の現在地に東長寺を再建した。寺には忠之関連の遺品が多数ある。

藩主や親族の菩提寺以外に城内に寺があるのは全国でも珍しい。

神仏混交の時代、年末には領内の神官が集まり、瓦灯窓を開けて三日三晩、天神地祇に天下泰平・武運長久・四民安泰を祈った。捧げたお札は、方寸大から二尺余のものまで、千数百枚に及んだという。領内のすべての社寺が収めたとときには、英彦山の山伏が、峰入りの終点として利用したこともあった。

祈念櫓の北側の二階の窓は瓦灯窓（がとうまど）で、将棋の駒の形のもので一間の幅で左右二個並んでいた。一階には二階のこの瓦灯窓を挟むように間合いをとって、左右に窓がある。



▲妙心寺(京都)の花頭窓

今も影も形もない瓦灯窓を、火灯または花頭新を地で行くものでなければならぬ。昔を知らないところからこうなったが、いつまでも誤ったままでは済まされまい。

## 第六回 福岡城内 クリーンアップ作戦

前回（六月九日）は小雨の中、多くの方を集まって頂いたのですが、雨のため中止いたしました。ご参加の方々申し訳ありませんでした。

お越しいただいた方の中から希望者には、むかし探訪館と鴻臚館の室内でタブレットを使った「バーチャル時空散歩」を味わって頂きました。

初めての方ばかりで、分かりやすくよく出来ていると好評でした。次回も宜しくお願い致します。

日時 九月八日（日曜日）

九時～十時（雨天時中止）

集合場所 むかし探訪館前 集合

多くの方のご参加お待ちしております。

## 第五十二回 博多どんたく

## 福岡城どんたく 演舞台報告

五月三日・四日ともお天気に恵まれ無事終了いたしました。

三日には、黒田家ご当主長高様が、「黒田官兵衛」に扮しパレードに参加、翌四日には長高様ご家族が、「福岡城演舞台」にお越しになられ「一束一本」の儀式や舞台を楽しみました。

両日の出演者や観覧者、七〇〇〇人もの方々が舞台を満喫されました。



# NPO法人 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会 第9回総会開かれる

平成25年6月14日開催の第9回総会に於いて下記の事項が承認されました。

## 総会報告

開催日時 平成25年6月14日(金) 14時～16時  
開催場所 福岡市中央区赤坂1-16-5 読売新聞西部本社1F  
よみうりプラザ

## 審議事項

- 第1号議案 平成24年度事業報告に関する件
- 第2号議案 平成24年度活動計算書に関する件
- 第3号議案 平成25年度事業計画に関する件
- 第4号議案 平成25年度活動予算書に関する件
- 第5号議案 定款変更の件

本議案は平成24年4月1日に特定非営利活動促進法の改正、施行により定款を改正するものです。改正内容の基本は各項目の名称変更です。

よって報告は割愛します。詳細が必要の方は当会へお申し出ください。

5月28日の理事会を経て総会が開催され、無事終了したことを会員の皆様にご報告します。

詳細につきまして質疑事項ございましたら当会へお尋ねください。

## 【第2号議案、第4号議案の活動計算書】

平成24年度実績及び平成25年度予算

(金額単位: 千円)	24年度実績	25年度活動予算	摘要
収入の部			24年度実績について
会費	2,099	2,200	(1) 会費の3年間の推移は次のとおり。
受取寄付金	22	20	22年度 2,416
観覧の宴	0	0	23年度 2,111
どんたく演舞台	1,768	1,700	24年度 2,099
観月の宴	0	0	(2) 観覧の宴は、平成23年度は該当なし。
歴史観光市民大学	991	1,200	24年度は4月7日に開催。
古代官道(昔跡)	11	10	観月の宴については、前掲の事業報告書に
史跡探訪バスツアー	60	100	詳細記述。
福岡城敷地マップ	500	35	(3) どんたく演舞台事業
福岡城下町マップ	16,039	16,000	収入1,768に対し支出2,383、当会負担金は
その他の事業	1	1	615である。
受取利息	146	146	(4) 市民大学は毎回好評を博し、受講者は逐年
雑収入	21,637	21,265	増加の傾向にある。24年度は、通算第5回
合 計			目(第5期)を開催した。収入991に対し、
支出の部			支出917、収支差額は75である。
受取寄付金	131	200	(5) 九州建設弘済会の支援事業に応募し、福岡
観覧の宴	2,383	2,300	城下町マップを完成させた。その代金50万
どんたく演舞台	0	0	円は、同会から3月29日に回収した。
観月の宴	0	0	管理費について
歴史観光市民大学	917	950	(1) 予算を超過した費目。
古代官道(昔跡)	395	400	通信費、事務費、租税公課(法人市民税、
史跡探訪バスツアー	500	500	及び消費税)、雑費。
福岡城下町マップ	15,475	15,475	(2) 費目別には凸凹があるが、予算対比は100%
その他の事業	0	0	の消費額である。
探訪バスツアー	1,480	1,400	結論
管理費小計	0	0	左表下欄の非収支33は使途が制約された受
合 計	21,283	20,725	取寄付金22と古代官道に関する書籍代金11
当期正味財産増加額	354	15	である。これを控除後の当期正味財産増加
非収支控除額	33	3,888	額は、321千円である。
控除後の正味財産増加額	321	3,898	以上

	24年度残高	25年度増加見込	当期末残高
使途制約のないもの	3191	-15	3176
福岡城整備整備金	589	20	609
古代官道書籍	103	10	113
合 計	3883	15	3898

## 【第1号議案】平成24年度事業報告に関する件

### 1 事業の成果

平成24年度は、恒例のイベント事業のうち、どんたく城内舞台は例年の如く実施したが、観覧の宴及び観月の宴は福岡市が主催する事業に組み込まれて実施した。即ち前者は「福岡城さくら祭り」の舞台を借りて、4月7日に開催した。後者は、世界17ヶ国からラガーマンが福岡市に集い、オールディーズ・ラグビー・フェスティバルを福岡市が主催した際に、その前夜祭で福岡城跡において当NPOが「五供の儀(観月の宴)」の開催に協力した。

福岡歴史観光市民大学については第5回を好評のうちに実施した。

福岡市が4月7日にオープンした「福岡城むかし探訪館」の受託業務に、当NPOが代表団体となり、アクテオ(株)と共同企業体を組んで受託し、精力的に活動した。3月末現在約30,000名の来館者があり一定の成果を挙げ、福岡市から評価を得た。

また、「新しい公共」支援事業の2年目事業も内容を充実して取り組んだ結果、市民フォーラムの開催、福岡城・城下町歩きツアー、まちづくりなどのプロジェクトを推進した。殊に、第3回市民フォーラム(11月1日福岡市講堂にて開催)は700余名の申し込みがあり、入場制限があったが400余名の参加を得て盛況裡に終了した。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
イベント開催	どんたく舞台	5月3～4日	福岡城跡	50人	7,000人	2,383
イベント開催	観月の宴	10月28日	福岡城跡	10人	3,000人	-
イベント開催	観覧の宴	4月7日	福岡城跡	10人	1,200人	130
研究・啓発	史跡探訪バスツアー	8回/年	九州管内	3×7回	194人	-
研究・啓発	福岡歴史観光市民大学講座	6月～11月	よみうりプラザ	4×30回	市民100人×30回	916
研究・啓発	機関誌発行	4回/年	事務所	延べ20人	3,000部×4回	394
資料制作(建設弘済会支援事業)	福岡城下町マップ作成	4～3月	事務所	20人	制作部数100部	500

#### (2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
委託・共同事業	福岡城・通館・プロジェクト共同事業(福岡城むかし探訪館)	4月～25年3月	福岡城・鴻臚館	延べ36人	30,000人	総事業費(※1) 16,000
支援・共同事業	福岡城・通館の民を市民と結ぶ市民委員会(新しい公共支援事業)	7月～25年3月	福岡城・鴻臚館及び市内	延べ 約100人	約2,000人	総事業費(※2) 5,359

注: (※1): 当会収益16,000 当会費用15,475 (※2): 当会収益39(散策マップ代) 当会費用1(差額負担)

## 【第3号議案】平成25年度事業計画

### 1 事業実施の方針

恒例のイベント事業のうち、どんたく演舞台は平成24年度から規模を縮小して実施した。本年も昨年の規模程度で実施したい。特段の収入措置が必要である。観覧の宴は福岡市の主催するさくら祭りの舞台を借りて開催することにより、研究・啓発事業は逐年受講者が、増加しつつある福岡歴史観光市民大学を充実し、歴史探訪バスツアーでは、来る2014年NHK大河ドラマで放映される「軍師官兵衛」の主人公の生地である福岡長門を訪ねることも、計画している。

平成23年5月11日「新しい公共」の場づくりのためのモデル事業の実行委員会が発足し、2年間に亘り1回/月の委員会が開催された。福岡市のランドマークとして鴻臚館・福岡城を活かすべきだという意識の高まりがあった。

時期を同じくして、福岡市が文化と観光を一体化した組織改正を行なうとともに「福岡城整備基本計画検討委員会」を立ち上げた。

当NPOとしては、「新しい公共実行委員会」で市民・鴻臚館・福岡城を啓蒙するためのお城巡りの活動に積極的に協力してきた。

### 2 事業の実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施予定日	実施予定 場所	従事者の予定数	受益対象者の範囲	支出見込額(千円)
イベント開催	どんたく舞台	5月3～4日	福岡城跡	30人	15,000人	2,300
イベント開催	観月の宴	-	福岡城跡	-	-	0
イベント開催	観覧の宴	4月	福岡城跡	30人	10,000人	200
研究・啓発	史跡探訪バスツアー	8回/年	福岡長門九州管内	3人×8回	30人×8回	0
研究・啓発	福岡歴史観光市民大学講座	5月～11月	よみうりプラザ	4人×30回	120人×30回	950
研究・啓発	機関誌発行	4回/年	-	5人×4回	3,000部×4回	400

#### (1) 特定非営利活動に係る事項

※実行委員会の主なもの

まち歩き分科会	鴻臚館・福岡城巡り	4月～3月	鴻臚館・福岡城跡	1人×96回	市民60人(5×96回)	-
まち歩き分科会	城下町歩き	12回/年	城下町	2人×12回	市民30人(30×12回)	-

#### (2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定日	実施予定 場所	従事者の予定数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額(千円)
共同企業体受託事業(当会が代表団体)	福岡城むかし探訪館	4月～3月	鴻臚館・福岡城跡	延べ36人	20,000人	-

## 編集後記

黒田家に係わるシリーズをスタートいたしました。新しい発見やご意見を、どしどし頂戴頂きたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

尚、「軍師官兵衛」のマスコットキャラクターが発表されました。

「ふくおか官兵衛くん」です。今後、時々顔を出します。よろしく!



## 編集・発行 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階  
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254

HPアドレス <http://fukuokajokorokan.info>

E-mail [staff@fukuokajokorokan.info](mailto:staff@fukuokajokorokan.info)

[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡市民の会

検索



竹瀧勝  
尾瀬  
律道  
子子亮

正会員(個人)

筑高古岡大田  
紫田賀塚代  
ひろ政範敬佳  
み司秀彦子子

一般会員(個人)

中月  
村川  
喜晴  
代子重

案森中岩宮松  
西村永本尾  
宏徹和い利  
美郎靖子子明

新規会員名簿(平成25年6月30日現在)